令和７年４月　　ＪＡ糸島　農畜産課

早期米　田植え後管理情報

～高収量、高品質を目指し、適期管理を徹底～

１．田植後の水管理

田植後の水管理はとても重要な管理である。田植後に水が無い場合、低温で活着が遅れたり、その後の生育や管理、収量に影響がでる。そのため、田植後気温が低い場合は初期生育確保のため、必ず深水管理を実施し保温に努める。その後、中干しまでの期間は間断灌水を行い、適期に中干しが実施できる管理を行うことが重要である。

２．除草剤散布作業

①初中期一発除草剤　＜栽培管理帳７ページ参照＞

（使用適期）・・・田植え後～１０日頃に深水で散布する。

（除草剤によっては田植直後から散布できるものもあるので使用時期は管理帳で再確認！！）

≪除草剤効果を十分に発揮させるコツ！≫

除草剤散布後７日間は、湛水状態（水が減ったら入水する）を保ち、落水・かけ流しをしない。

特にジャンボ剤、フロアブル剤は、浅水では効果が低くなります。

②中期除草剤　＜栽培管理帳８ページ参照＞

〇初期に除草剤散布ができなかったり、取り残しの雑草がある場合に散布。

摘要雑草	薬剤名	処理量／10ａ	使用時期
ヒエ	クリンチャーＥＷ液剤	100ml（水 25～100ℓ）	ノビエ 6 葉期まで、収穫前 30 日
ヒエ	ロイヤント乳剤	100ml（水 25～100ℓ）	ノビエ 5 葉期まで、収穫前 45 日
広葉	バサグラン粒剤	３～４kg	移植後 15～40 日、収穫前 60 日
両方	クリンチャーバスＭＥ液剤	1000ml（水 70～100ℓ）	移植後 15～40 日、収穫前 50 日

３．中干し　！！　最重要！！

中干しは中干しから収穫時期までの生育を左右する最も重要な管理作業である。中干しができていないと、絶対に高品質・高収量を目指すことができない！！

早期米は梅雨時期と重なるので、排水の栓を抜く等、工夫が必要。

①中干し時期　（6 月 10 日頃から）

１）茎数が１８～２０本程度になれば開始する。

②中干しの効果

１）**無効分けつを抑え、屑米が減少する。**

２）窒素吸収を抑え節間身長を短くし、**倒伏防止**。

３）**硫化水素（有害物質）の発生を抑える。**

４）収穫時に乾きやすく収穫作業が楽に行える。

４．増収に向けた一手間

①ケイ酸加里の施用！！（基肥に入れてない場合）

１）施用時期と量・・・・・**出穂前４５日頃（中干し開始頃）にケイ酸加里を３０kg／１０a** 施用する。

２）ケイ酸加里の効果（登熟を良くし、屑米を減らすことができるため増収となる。）

「ケイ酸」・・・稲にとって重要な成分であり、受光体勢が良くなり光合成能力が向上し**登熟の向上。**

「カ　リ」・・・カリの吸収が増すことで、**根量が増加し、養分吸収を増大**させる。

ご不明な点がありましたら、農畜産課（092-327-3912）までご連絡ください。